

■ 中南米の日系社会に飛び込もう！

■ 日系社会青年ボランティア／日系社会シニア・ボランティアとは？

約 100 年前に日本から中南米地域に移住した方々やその子弟を中心とした日系社会で生活しながら、中南米地域の日系社会の発展のために活動します。活動内容は、日系社会の次世代を担う日系子弟への日本語教育や高齢者介護が中心ですが、日本文化指導や日系社会におけるイベント企画、スポーツ指導（野球、ソフトボール、卓球など）など多岐にわたります。

■ 職種ごとに求められる資格・経験（一例）

- 日本語教育：日本語教育の知識及び技能を有すること。日本語教育に関する資格がなくても、小学校教諭、国語や英語の教諭免許保持者、免状がない場合でも塾などでの指導経験や青少年への指導経験があると望ましい。
- 高齢者介護：高齢者介護施設などでの実務経験。行事の企画・運営、レクリエーション指導の経験。
- 文化（日本の伝統芸能や漫画、よさこいソーランなどのサブカルチャー）：教室、稽古所、クラブなどでの実践経験。要請によっては指導経験または級・段や師範などの資格を求められるものもある。
- 青少年活動：ボーイスカウト、青年団、青年会議所など社会教育や社会奉仕活動の経験。
- コミュニティ開発：組織・団体における運営や業務調整の経験 など。
- スポーツ（野球、ソフトボール、卓球、空手、柔道、剣道など）：競技経験が 3 ～ 5 年以上。スポーツ指導に関する資格所持が望ましい。青少年への指導経験があると望ましい。

■ 活動例



日本式の野球指導を通じて、日本の礼儀や感謝の気持ちなど、日本の心を伝える
日系社会青年ボランティア
(野球／アルゼンチン)



現地校で学ぶことのできない、日本文化（習字）を教えている様子
日系社会青年ボランティア
(日系日本語学校教師／パラグアイ)



ブラジルの和太鼓チームを世界大会に導いた指導の様子
日系社会シニア・ボランティア
(文化（太鼓）／ブラジル)

photo: 久野真一 / JICA

■ (参考) 日本語教育分野ボランティアの比較

- 2017 年度より「日系日本語学校教師」の名称は「日本語教育」に変更になりました。
- 要請の活動先と活動内容をよくご確認の上、希望要請をお選びください。

青年海外協力隊	日系社会青年ボランティア
対象者： 小学生～社会人 配属先： 学校教育機関（初等～高等）、職業訓練校、公開講座実施先 主な活動： 第一／第二外国語としての日本語の授業の実施、現地教師の支援、日本文化紹介イベント	対象者： 主に日系人（年少者中心） 配属先： 日系団体運営の日本語教育機関 主な活動： 日本語の授業の実施、複数校を巡回指導、情操教育関連授業の実施、日系団体主催行事へ協力、
シニア海外ボランティア	日系社会シニア・ボランティア
対象者： 学生～社会人 配属先： 高等教育機関、政府関連機関、公開講座実施先 主な活動： 第一／第二外国語としての日本語の授業の実施、シラバスなどの改訂、現地教師の養成・育成	対象者： 主に日系人（年少者中心） 配属先： 日系団体運営の日本語教育機関 主な活動： 日本語の授業の実施、複数校を巡回指導、現地教師の養成・育成、日系団体主催行事へ協力